

## クラス

津守 真

高い所の上って、遠くの方を眺めている子どもがいる。何を見ているのだろうか。空を走る雲か、子どもたちのざわめきか。はじめてつきあう私をまともに見ようもしない、その子どもの心情を推し量るゆとりができたのは、四月から一月も経ったこのごろである。それまでは、高い所上るのを好む子どもだらけにしか見る余裕がなかった。

新しいクラスをつくる新学年は忙しい

四月、新学年のはじめ、新入生たちが入ってくる。私の学校にも、今年はいつもの年よりも多くの新しい子どもが加わった。私の担当するクラスでも、以前からの子どもも大人の手をしっかりと要求するし、どの子のことも気にかかって、毎日をあわただしく過ごした。クラス担任でないフリーの立場だと、最初から深く交わってゆけるが、担任となると、だれかとゆっくりと過ごすことができな

い。ひとりの子どもとつき合っている、はじめての子どもがどこかで不安になっていないかと気になり、ちょっとでも手のあいたときには、あちこちと走りまわってしまう。一日を終わったとき、だれと何をしたのかも思い出せない。私の方から、落ち着かない雰囲気をつくり出している。これは、担任が全部の子どもをみてゆかねばならぬ、クラスという制度をつくっているからではないかとも考えてしまう。だが、もしもクラス担任制がなかったら、だれの目からもぬけてしまう子どもが出てきはしまいか。そんな考えの間を揺れ動きながら、現実にはクラス単位をもとにして学校は運営されているから、自分たちに与えられた子どもと親たちと、できるだけ万遍なく交わろうとする。だから、新学年のはじめは担任はこの上なく忙しい。

担当の保育者がいることにより子どもは育つ

クラス担任になると、私とその子どもたちの安全を守り、毎日の生活を共にしなければ、だれもほかにそれをする人はいないというひきしまった気持ちになる。ひとりの子どもが育つには、その子どもに継続的に細かく気を配る保育者を必要とする。どの子どもについても、だれかが（一人の大人に複数の子ともであるが）責任をもってみていなければ、ひとつの学校や園は成り立たないだろう。それがかならずクラス制に結びつくのかどうかは分からないが、クラス担任制はこのような必要からつくられたのだろう。

クラス所属が子どもの見え方を決める

担任になると、自分のクラスの子とも他のクラスの子ともを区別して見てしまう。そんなことはあってはならないと考えていても、他のクラスの子ともが泣いていたり、ひとりで寂しそうにしていると、そのクラスの担任は何をしているのかと思ったりする。たとえわずかの時間でも、それを見た人がそこにかかわれば全体がどんなに良く動くかと思えるのに、大人の助力を必要としている子どもでないとそのことに気付かない。クラスの枠が最初から先入観をつくっている。ある子どもをどのクラスに所属させるかは人為的に決めることで、そのことが見え方を変えるのだから、その人為性は子どもにとって運命の分かれ道にもなる。

私のクラスに、他のクラスの先生を好きな子どもがいて、その子は大半の時間をその先生の傍で過ごしている。私はその先生に「すみません」という。だが考えてみれば、その子はこの学校の子どもであり、その子がその先生を選んでいるのだから、私が詫びることではなさそうである。逆に、私のところで多くの時間を過ごしている子どもは、クラス所属がどうであれ、その子の必要に私はこたえるのであって、それはあたりまえである。昨年の中頃、他のクラスの子どもで私を独占したい子がいた。その子のことはここにも記したが、もしもクラス所属が違っていたら、その子と私の悩み方は違っていただろう。クラスの枠が、大人の子どもに対する知覚を変えるのだ。

この点では、担任からフリーの立場だと、純粹にある子どもが必要によって応答することが許される。ひとつの学校や園には、どのクラスにも所属しない大人が必要なのだと思う。そんな大人が何人もいたら、随分と良いことだろう。

## 大人同士の相互状況知覚による保育

私共は複数担任なので、それぞれが子どもにぬ<sup>い</sup>けのないように気を配り、大人同士が相互に理解し合って保育することに慣れてきたとき、私も次第にひとりの子どもとゆ<sup>い</sup>っくりとつき合う時間が増してきた。自分がみていない子どもを、だれかがしっかりと見ているという安心感があると、私も眼前の子どもとしっかりとつき合うことによって全体が成り立つのだとの認識になる。その場合、ある大人の担当する子どもを決めるのが必要なこともあるが、固定的関係にはまらず、むしろ大人同士の相互状況知覚によって臨機応変に動くのが自然であるように思う。子どもがだれを選ぶかということもあるし、偶然の出合いが私をある子どもに結びつける。また、子どもは一日の中で移動するから、ひとりの子どもはいろいろな大人と交わることになる。私はそこに保育の場の特徴があると思う。

相互状況知覚による連携プレーは、特定のクラスの担任の間だけでなく、他のクラスの大人にも及ぶ。クラス担任は明確にあるのだが、クラスの枠はゆるやかに考え、学校全体の大人たちが互いに補い合って全体の子どもをみるという相互理解がその基盤にある。

四月の末頃になると、幸いなことに、私共の学校には実習生が参加してくれるので、実習生がこの共同の保育の動きの一員となる。それぞれが、自分の周囲の子どもたちと大人たちの状況をみながら自分の動き方を判断するようになると、全体は一層円滑になる。

養護学校の保育の場では、大人の人数を多く要するのだが、普通の保育では、子どもたちが互いに保育者の働きをするのではないだろうか。また、小さい時から、人間関係の状況の中で自分で考えて動くこと、すなわちある意味で相手を育てることができるようになることは、保育や教育の大きな課

題なのではないだろうか。それは幼いときからの民主的な保育の場中でなされる。

#### 保育者の人数と母親の参加のこと

先日、英国の O M E P から訪問者があった。その人たちの第一の質問は、日本では新入児は四月に一斉に入園するのかとの問いだった。英国では月ごとにその月の誕生者が入ることだった。日本でもこうすれば新学年の混乱はずっと緩和されるだろう。それには長い年月がかかるだろうが。

先日、母親たちの懇談会で、欧州から帰国したばかりの人が、フランスの学校では母親がクラスの中に入って手伝うのは普通だと語った。このことは世界の各国でごく普通に見られることである。この席にいたひとりの親がこの話に感銘を受け、学校の先生はそれを職業としてはいえ、多数の子どもを預って大変なのは分かっているのだから、わたしたちもお手伝いしなければ申し訳ないと語った。日本の親たちは学校にすべてお任せするといふ態度で、何か落ち度があると学校の責任にするのはどうかと思うと感想を述べ、いつの日か自分も余裕ができたなら、小さなことでもいいから学校でお手伝いできるといいと話した。私共の学校では、親から離れると不安になる子どもの場合には、一年も二年もクラスに入っていることは珍しくなく、そういう親は次第にいろいろの子どもに関心を持ってみてくれるようになる。親にとっては良い教育の、学校にとっては良き理解者を得る機会であると思う。しかし、外国のように、親を常時のヘルパーとなし得るかどうかにはいくつもの問題があるだろう。

その英国の訪問者に、日本の幼稚園の設置規準は一クラス四〇人であると話したら、外国人と話したことのある多くの人が経験しているように、論外だという顔つきをされた。

一人の大人が気を配って保育することのできる人数には限度がある。ひとりひとりの子どもと余裕を持って交わることを可能にするだけの大人の人数をそろえることは、保育の質を向上させるための前提条件である。管理者にとっては困難な厳しい課題である。

子どもはいろいろな人と触れることにより成長する

クラス担任は、所属する子どもたちのすべてに気を配り、そのことに多くの労力と精神力を使っている。自分がその子たちのことを一番よく知っていると思いがちである。そのことがひとつのクラスを閉鎖的な密室にする。担任の観点からの思いこみが子どもを見えなくすることもある。

私の担当のある子どもは、大人が困ることをするのが好きである。私はできるだけその子のしようとすることに協力するつもりでつきあうのだが、もし何か事故を起こしたら私の責任と思うと、何かがあれば直ぐにゆける距離で監視する関係になっている。ある時、その子どもが他のクラスの先生と追いかけっこをして、私との間では見られない笑顔をみせているのに気が付いた。クラス担任としての私の存在も必要だが、担任の枠にはまらない人との交わりの大切さを知らされる。

担任制をとっている場合、自分と子どもとの関係を閉鎖的にしてしまわないように、更に他の人々との関係へと開かれるようにすることも、担任の重要な仕事の一つと思う。

それぞれの子どもが、活力を持って、自分の仕方できていることが保育の質を決めるバロメーターである。制度にはそれを守る面と、それを妨げる面とある。クラス担任制があるおかげで、私は自

分の力の及ぶ範囲の子どもと丁寧に交わることができる。反面、そのために、自分をも子どもをも必要以上に束縛している面があることにも気がつく。制度は人間を生かすためにあるので、子どもが制度のためにあるのではないという原点に、常に立ちもどろう。

今回、私は、学校や幼稚園の先生なら、誰でも当然知っていることを記したのではないかと思う。私は、長年子どもの仕事をしながら、クラス担任として子どもに接したのははじめてである。この点では晩学であるが、この経験によって、大人と子どもとの関係を成立させている社会的基盤について考えさせられている。

(愛育養護学校)

